

J リーグクラブにおける成績と収入・人件費の関係

スポーツビジネス研究領域

5007A011-5 内田亮

研究指導教員： 平田竹男教授

本研究では、Jリーグクラブにおける経営を行うにあたって参考となりうる指標を提示するために、収入とクラブの成績、成績と人件費との間にどの程度の関係があるのか、明らかにすることを目的として研究を行った。

欧米においては、スポーツ産業研究のテーマの1つとして、Forrest & Simmonsによる北米4大スポーツを対象とした研究や、Szymanski & Kuyperによるイングランドサッカーリーグでの研究など、クラブの収入と成績との関係、クラブの成績と人件費との関係について、いくつもの研究が行われてきた。しかし、一方で日本におけるスポーツ産業の研究においては、クラブの収入と成績との関係、クラブの成績と人件費との関係についての研究は発表されていなかった。

以上の海外における先行研究を参考として、各変数を設定し、2006年と2007年のJリーグクラブの財務データおよびJリーグ公式の成績データを用いて、クラブの収入と成績との関係、クラブの成績と人件費との関係それぞれについて単回帰分析を行った。

その結果として、Jリーグクラブにおけるクラブの収入と成績との関係性として2006年度シーズンでは独立変数であるクラブの成績(順位)変数が、従属変数である収入変数に約70%結び付いていることが明らかになった。さらに、2007年度シーズンにおいては、独立変数であるクラブの成績(順位)変数が、従属変数である収入変数に約74%説明していることが明らかになった。また、クラブの成績と人件費支出との単回帰

分析の結果、Jリーグクラブにおいては、人件費支出がクラブの成績を説明する程度として、2006年度シーズンでは約60%、2007年度シーズンでは約74%であることが明らかになった。さらに、2006年度シーズンのJ1クラブのみを対象とした分析において、自由度調整済みR²値は0.28であった。この値は、推定年俸を用いてクラブの成績と人件費支出との関係について分析を行った過去の研究と同程度の値であり、推定年俸を用いた分析の信憑性をある程度説明することができるであろう。

これらの結果は、Jリーグにおいても、ヨーロッパ各国のプロサッカーリーグと同様に、試合に勝利し、良い成績(順位)を残すことに成功したクラブは、より多くの収入を得ることができると共に、選手人件費額の大小によってクラブの成績が決定される傾向にあり、選手やコーチなどへの人件費の投資が、競技成績の面でクラブが成功するために必要な要因になると考えられる。

本研究の結果から、収入と成績、成績と人件費との関係性が明らかになったことで、Jリーグクラブにおける経営指標を提示することができた。

ACLが刷新され、Jリーグで上位の成績を残すことが、クラブの収入拡大における大きなインセンティブとなることから、今後Jリーグクラブがより多くの収入を得るためには、多少のリスクを背負ってでも、有能な選手への投資を行うことで、クラブの成績を向上させていく必要があると考えられる。